

2022年1月31日

2022年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

東証・名証1部 証券コード：2053

ホームページ <https://www.chubushiryo.co.jp/>

お問い合わせ先 TEL: 052-204-3050 総務人事部 総務課

◇ 連結経営成績	3
◇ 連結財政状態	4
◇ 畜産飼料の業界環境	5
◇ 飼料事業 実績	6
◇ 飼料事業 実績 ①畜産飼料	7
◇ 飼料事業 実績 ②水産飼料	8
◇ 中期経営計画達成に向けたアクションプランと3Q総括	9
◇ 業績予想の修正	10
◇ 株主還元【自己株式の取得】	11
◇ 参考資料 -用語集-	12

連結経営成績

(単位：百万円)

	21.3 3Q	22.3 3Q	増 減
売上高	134,549	144,890	10,341
飼料	113,131	136,363	23,231
その他	21,417	8,527	△ 12,890
営業利益	4,156	3,766	△ 389
経常利益	4,449	4,107	△ 341
セグメント利益	4,170	4,216	46
飼料	4,342	3,875	△ 466
その他	646	594	△ 52
調整額	△ 818	△ 252	565
四半期純利益	2,866	2,975	109

売上高

- ◇ 飼料
当期の事業譲渡による減少要因あるも畜産飼料の販売価格上昇により増収
- ◇ その他
収益認識会計基準の適用と前期の事業譲渡により減収

セグメント利益

- ◇ その他
 - 特殊卵や有機入り配合肥料、畜産物は販売が増加し増益
 - 畜産用機器は前期販売した大型案件の反動減により減益
- ◇ 調整額
前期事業譲渡損を計上

※1 従来「飼料事業」と「コンシューマープロダクツ事業」に区分していたが、22.3期1Qより「コンシューマープロダクツ事業」を「その他事業」に含めている
 21.3期3Qは、変更後の区分に基づき開示

2 セグメント利益は、税金等調整前四半期純利益

22.3期3Q 連結貸借対照表

(単位：億円)

流動資産	607	(+48)
現預金	26	(△91)
売上債権	422	(+118)
たな卸資産	127	(+20)

たな卸資産回転日数 26日

流動比率 246%

固定資産	300	(△19)
有形	240	(△19)
無形	5	(+0)
投資その他	54	(△0)

総資産 907 (+28)

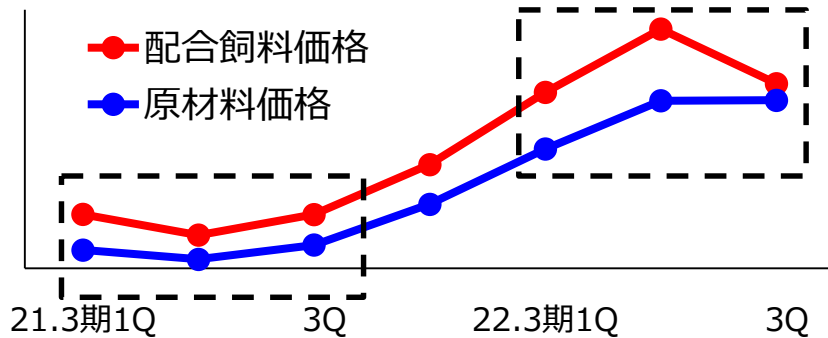
負債	290	(+14)
仕入債務	183	(+50)
有利子負債	39	(△31)

純資産	616	(+14)
株主資本	603	(+20)
その他包括利益	11	(△2)
非支配株主持分	2	(△4)

自己資本比率 67.7%

負債・純資産 907 (+28)

※ () 内の数値は、21.3期末との比較

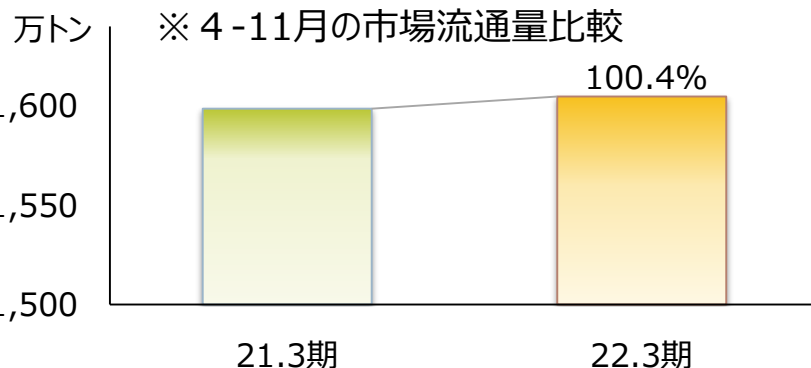


※ 配合飼料価格と原材料価格は当社数値

原料ポジションの状況

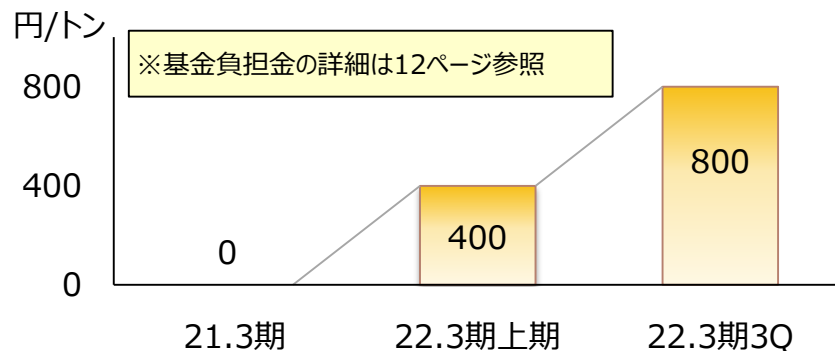
- ◇ 22.3期1～2Qは前年同期と比較し改善
- ◇ 22.3期3Qは値下げ後の原料価格上昇により、ポジション悪化

原料ポジションとは、原材料価格と飼料価格の変動幅に生じるギャップやタイムラグを指す (※詳細は12ページ参照)



畜産飼料の市場流通量

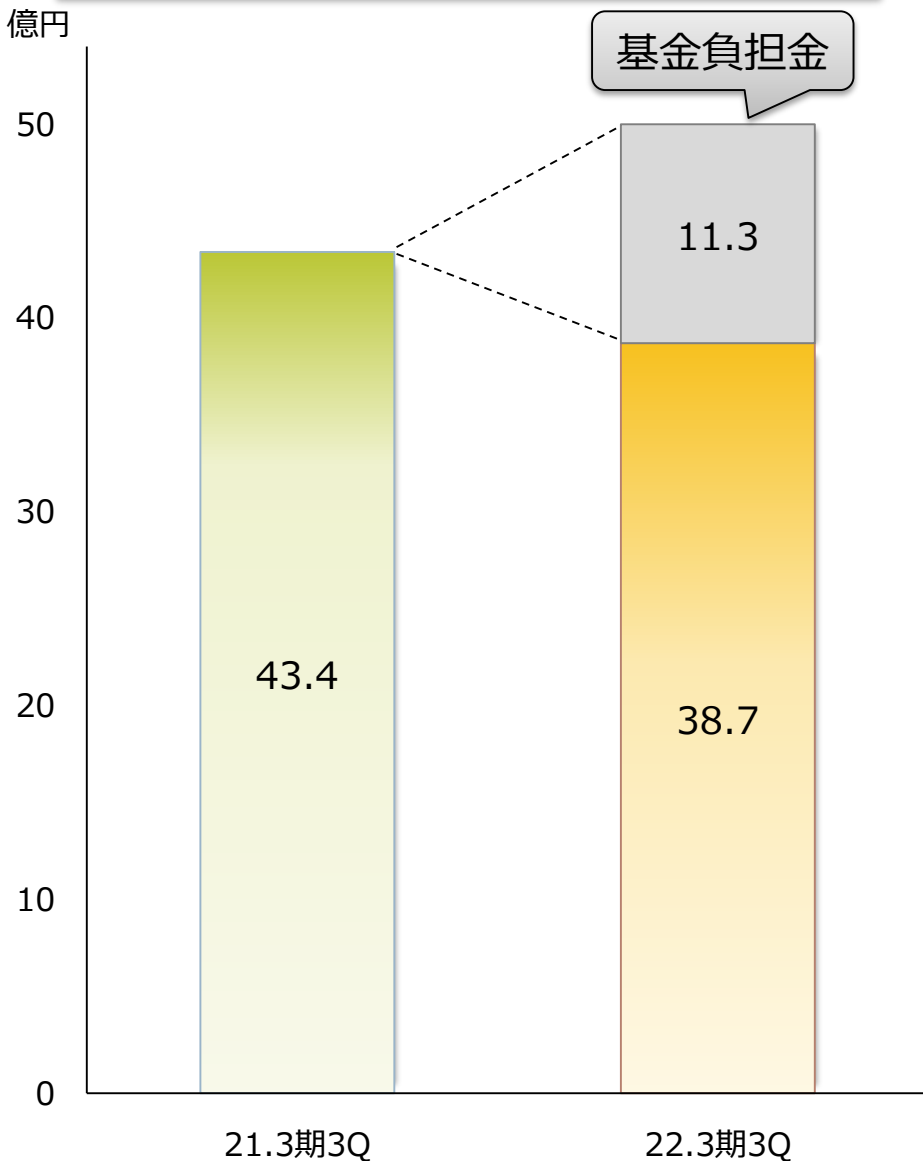
- ◇ 昨シーズンの鳥インフルエンザ感染拡大から回復途上
- ◇ 市場流通量は前年同期と比較して微増



基金負担金の単価推移

- ◇ 21.3期は負担金なし
- ◇ 22.3期1Qより400円/トンの積立金が発生
- ◇ 3Qより800円/トンに増加

セグメント利益の推移



セグメント利益

増加要因

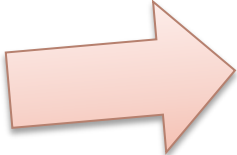



- ・畜産飼料販売量 微増
- ・原料ポジション改善

減少要因

- ・基金負担金（販管費）の増加
- ・販売活動費等の費用増加
- ・前期は釧路工場建設にかかる補助金 102百万円を特別利益に計上
- ・水産飼料 販売量・利益率 低下

飼料事業の利益は減少



飼料事業 実績 ①畜産飼料

項目	前年同期比	内容
販売量		<ul style="list-style-type: none"> ○ 鳥インフルエンザの影響は回復途上であり、採卵鶏用飼料は減少 ○ お客様の生産性向上に寄与するブロイラー用飼料の拡販に成功 ○ 北海道は、ブロイラー用の他に養牛用飼料の拡販にも成功し、引き続き堅調に推移
差別化飼料比率		<ul style="list-style-type: none"> ○ 鳥インフルエンザの影響により、差別化飼料の取組みが進んでいた採卵鶏用飼料の数量が減少
原料ポジション		<ul style="list-style-type: none"> ○ 前年同期と比べて改善も、3Qに入り急激に悪化
基金負担金		<ul style="list-style-type: none"> ○ 22.3期上期より400円/tの積立金が発生 ○ 3Qより800円/tに増額となり、11.3億円の負担増


※ 矢印の向きは利益への影響度を示す

業界環境

- ◇ 水産飼料業界における競争激化が進む
 - ぶりの稚魚導入量が減少
 - コロナ禍で外食産業の水産物需要は依然として厳しい状況
- ◇ 原料価格が前年同期に比べて大幅に上昇

項目	前年同期比	内容
販売量		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 当社の飼料販売量は前年同期を下回る ○ 稚魚の不漁により、ぶり用飼料が減少 ○ 飼育尾数の減少により、まだい用飼料が減少 ○ うなぎ用飼料の販売量は微増
利益率		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 水産飼料の利益率は低下 ○ 競争激化により原料価格の上昇分を価格転嫁できなかった ※ 水産飼料は定期的な価格改定がない

※ 矢印の向きは利益への影響度を示す

項目	アクションプラン	3Q総括
地域別販売戦略	<ul style="list-style-type: none"> 成長市場の北海道・東北でシェア拡大 	北海道 
		東北 
畜種別販売戦略	<ul style="list-style-type: none"> 営業組織を鶏・豚・牛に細分化 機動力と専門性をより高め、お客様に高度な提案を実施 webを使った畜種別研修の増加 	採卵用 
		ブロイラー用 
		養豚用 
		養牛用 
差別化飼料比率の向上	<ul style="list-style-type: none"> 汎用化した差別化飼料をブラッシュアップ 新たな差別化飼料の逐次投入 	差別化飼料比率 
水産飼料の拡販	<ul style="list-style-type: none"> ぶり・まだい用飼料の拡販 	ぶり・まだい用 

業績予想の修正

(単位：百万円)

	当初計画 (21.5.20)	修正計画 (22.1.31)	増減
売上高	177,500	192,000	14,500
営業利益	5,500	4,000	△1,500
経常利益	5,850	4,350	△1,500
純利益 [※]	4,100	3,100	△1,000

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

計画修正の主な要因

◇ 売上高

○ 畜産飼料

- ・ 原材料価格が高騰したのを受け、平均売価が上昇し、当初計画を上回る見込み。
- ・ 販売量は、鳥インフルエンザからの回復が想定より遅れ、当初計画を下回る見込み。
当初計画+1.7% → 修正計画+0.1%

◇ 営業利益

○ 畜産飼料

- ・ 3Q売価の値下げ決定後、原料が高騰し原料ポジションが大幅に悪化。4Q以降も継続すると想定し、利益率低下を見込む。
加えて、販売量を下方修正したことにより、当初計画を下回る見込み。

○ 水産飼料

- ・ 販売量、利益率ともに当初計画を下回る見込み。

株主還元【自己株式の取得】

還元方針

- ◇ 安定配当を維持向上させる
- ◇ 将来の事業展開や経営環境の変化に対応するために必要な内部留保、業績及び純資産配当率（DOE）等を勘案し、配当を決定する
- ◇ 株価水準や財務状況等を勘案して自己株式の取得を機動的に実施し、資本効率の改善と株主の皆様への還元を図る

自己株式の取得

- ◇ 2022年1月31日付「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」にて開示

取得理由	資本効率の改善及び株主還元の充実を図るため
取得する株式の総数	500,000株（上限） 発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合1.66%
株式の取得価額の総額	700百万円（上限）
取得期間	2022年2月1日～2022年5月31日
取得方法	東京証券取引所における市場買付

Q 差別化飼料とは？

A

- ◇ お客様との取組みの中で開発
- ◇ お客様の生産性向上や特性ある畜産物の生産に貢献する高付加価値製品

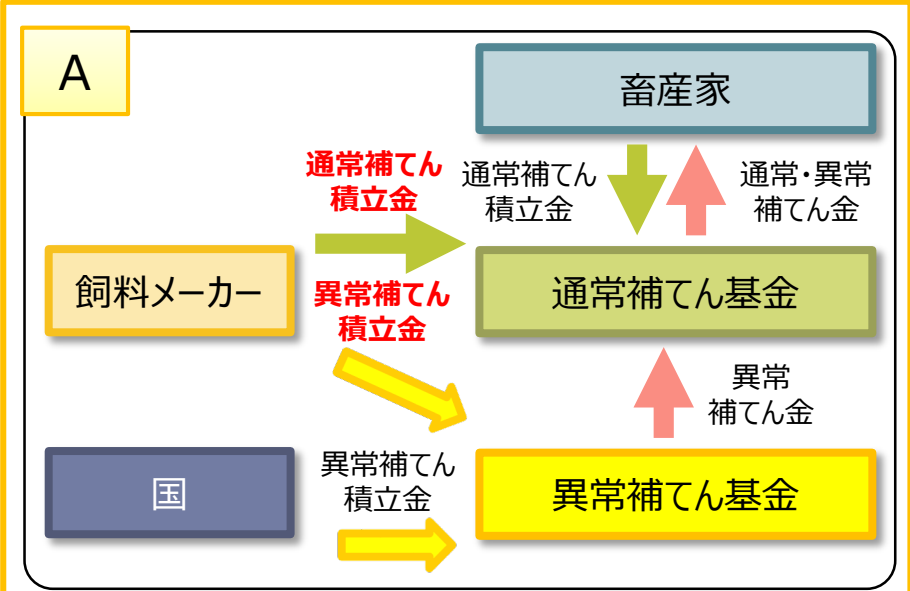
Q 原料ポジションとは？

A

- ◇ 原材料価格は、穀物相場や為替、海上運賃等により変動
- ◇ 飼料価格は、四半期毎に改定
- ◇ 原材料価格と飼料価格の変動幅にギャップやタイムラグが発生

⇒ 原料ポジションが改善・悪化

Q 基金負担金とは？



目的 ◇ 飼料価格上昇による畜産経営の影響を緩和

内容 ◇ 畜産家・飼料メーカー・国が積立

- ◇ 一定のルールに基づき、畜産家へ補てん金を交付
- ◇ 積立金は財源により増減



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。